

## 第43回 容量市場の在り方等に関する検討会 議事録

### 1. 開催状況

日時：2023年1月30日（月） 10:30～11:40

場所：Web会議

出席者：

秋池 玲子 座長（ポストンコンサルティンググループ マネージング・ディレクター & シニア・パートナー）  
秋元 圭吾 副座長（公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー・主席研究員）  
安念 潤司 委員（中央大学法科大学院 教授）  
松平 定之 委員（西村あさひ法律事務所 パートナー）  
松村 敏弘 委員（東京大学 社会科学研究所 教授）  
圓尾 雅則 委員（S M B C日興証券株式会社 マネージング・ディレクター）  
伊藤 英臣 オブザーバー（東京ガス株式会社 電力事業部 担当部長）  
紀ノ岡 幸次 オブザーバー（関西電力株式会社 エネルギー・環境企画室 企画担当部長）  
小鶴 慎吾 オブザーバー（株式会社エネット 経営企画部長）  
佐々木 邦昭 オブザーバー（イーレックス株式会社 経営企画部 副部長）  
高垣 恵孝 オブザーバー（送配電網協議会 ネットワーク企画部長）  
森 正樹 オブザーバー（電源開発株式会社 経営企画部 ESG・経営調査室長）  
田山 幸彦 オブザーバー代理（東京電力パワーグリッド株式会社 執行役員 系統運用部長）

欠席者：

小宮山 涼一 委員（東京大学大学院工学系研究科 教授）  
林 泰弘 委員（早稲田大学大学院先進理工学研究科 教授）  
梅本 昌弘（伊藤忠エネクス株式会社 電力・ユーティリティ部門 電力需給部長）

議題：

- （1） 容量市場メインオークション約定結果について
- （2） 追加オークション募集要綱に関する意見募集結果について
- （3） 「実需給2年度前の容量停止計画の調整業務」結果概要

資料：

- 【資料1】議事次第
- 【資料2】委員名簿
- 【資料3】容量市場メインオークション約定結果（対象実需給年度：2026年度）
- 【資料4】追加オークション募集要綱に関する意見募集結果について
- 【資料5】「実需給2年度前の容量停止計画の調整業務」結果概要

## 2. 議事

### (1) 容量市場メインオークション約定結果（対象実需給年度：2026年度）

- 事務局より、資料3に沿って、容量市場メインオークション約定結果（対象実需給年度：2026年度）について説明が行われた。

[主な議論]

(松平委員)

説明感謝する。14 ページで、発動指令電源の調整係数が北海道と九州を除き 100%となり、減算の調整はなかったと理解した。一方、25 ページでは、発動指令電源の落札率が区分ごとに 99%を超えたと理解した。またもうひとつ発動指令電源について整理されたものが 37 ページにあるが、発動指令電源の応札容量が 630 万 kW のうち 600 万 kW ということで、これを比べると、期待容量の中で発動指令電源が占める割合はかなり上限に近づいてきているものの、一方、北海道と九州を除くと、まだ調整を受けずに追加で入る余地があると理解した。更に読み取れるものとして、25 ページでは、安定電源の落札率は 90%少々とのことで安定電源として期待するものからは下回った。その辺り、今後、規制側としてシステムの安定性を確保する観点で、事業者の行動に対し、どのようなことを期待していくかのメッセージ等があれば伝えていくことが必要と考えた。私の受け止めとしては、DR も含め、まだ発動指令電源に余力があるので事業者が追加する活動を期待できると考えた。一方、安定電源では足りない部分があり、これについては現在制度として検討中である長期脱炭素電源オークションの仕組み等に期待していく部分があると考えたが、この理解で合っているか確認したい。事務局が今回の結果を踏まえて現時点で何らかのメッセージ、コメント等あれば教えていただきたい。

(秋元委員)

説明感謝する。今回は 3 回目ということで、これまで色々制度を変更しながら探ってきたことと認識し、制度変更も伴う中、大変な作業をしてきた広域機関の事務局の皆様方に感謝する。今回は発動指令電源の部分で少々募集量を増やすに当たり、調整係数の事前公表を行なった。14 ページで見ると、事前に公表した調整係数と比べてさほど大きな差はなかったと理解しており、事前公表をしっかりとやっていただいたことによって事業者の予見性も高まったと認識している。最後に全体として、約定価格について、初回は上限価格、2 回目は低価格となり振れていたが、今回 3 回目は市場で決まるような価格になったとのことではあるが、回数を重ねて見ていく必要はあるかと考えた。大きな変更をあまりやり過ぎると、どの価格なのかの予見性が立ちにくくなるため、ほどほどにしながら慎重に見極めていく必要があるかと考える。当然ながら、次回向けては長期脱炭素電源オークションや EUE 見直しについて議論が進んでいくかと考えるため、その手当は必要になってくるが、繰り返す中でよく見て、どのようなことが起こっているか検証を進めていただきたい。

(松村委員)

スライド 14 の事前公表時の発動指令電源の調整係数と比べて北海道と九州で下がったことを懸念している。事前公表は 5%を目一杯入れた時の参考値なので、多くの事業者はこれと同じかこれよりも高くなることを想定すると考える。原理的に小さくなることはあり得るし、ルール通りにちゃんとやったことは分かるのだが、この事後的に調整係数が下がってしまう事態を懸念している。調整係数を反映した容量が 1,000kW 未満になった場合は非落札電源になるということだが、参考値での計算は 1,000kW を超えるはずだったものの、事後的に算定されたものは 1,000kW に足りず非落札電源になった電源があったのか教えていただきたい。仮にそういうことがあると、事業者の予見性に深刻な問題になるのではないかと考える。事前公表時と事後的に算定したものを比べ、大きいほうの数値が 1,000kW を超えるものは非落札電源としない処理をする等、次年度までに検討する必要があると考える。今回の場合、発動指令電源の非落札電源は少なく、

北海道と九州を除けばそのようなことは起きなかったとのことで大騒ぎする問題かと言われる可能性はあるが、事前公表時には 1,000kW を超えていたのという事業者が出てこないようにする工夫はできないか検討すべきと考える。次に、落札できなかった電源の特性を調べ、落札価格ごと、種類ごとに調べていただいたことはとても有難い。スライド 30 の情報は有難いが、もう少し教えていただきたい。まず、NetCONE を超えているか否かも重要であるが、その前の供給曲線を見ると、上限価格を超えた価格で応札しているものがあるように見える。処理の結果としてそう見えるのかも知れないが、上限価格を超える価格で応札したものは性質が違ふと考える。絶対に落札できない価格で入れてくる確信犯的なものは、そもそも応札されなかったのと同じであるため、それ以外の応札と分けて示すことはできないか。また、先程発言したように、発動指令電源で調整係数を反映した結果として 1,000kW を下回ったものがどれほどあり、価格で落札できなかったものがどれほどあるかについては重要な情報だと考えるため、現時点で分かるようであれば見せていただき、そうでなければ何らかの形でこの後に調べておいていただきたい。

(事務局)

松平委員のコメントについては、タスクフォースでも落札電源については集計等を見て評価する必要があるとのご意見もあるため、そのような部分も加えて、今後評価していきたいと考えている。また、安定供給をどう考えていくのかについては国と審議を進めながら対応していきたいと考える。次に、秋元委員の結果を受けて度々ルールを変えてしまうと正しい評価ができなくなるのではないかというコメントについては、今回の経過も踏まえ今後どうしていくか国と協議しながら進めていきたいと考える。最後に、松村委員からの調整係数結果に関する質問については、事前公表の調整係数で算定した場合にも非落札になる電源は存在した。件数については多くはないが、個別情報が入ってしまうため、こちらの場での詳細は控えさせていただく。この辺りは今回の結果を踏まえて今後も対応を進めていきたいと考えるので、引き続きご意見等いただきたい。

(松村委員)

今の説明についてももう少し願います。調整係数をかけた結果、1,000kW に満たなかったとして非落札電源になったものがあつたことは承知した。事前公表の調整係数であれば落札できた値だが、事後のもので非落札電源となったものの有無についてはどうか、教えていただきたい。

(事務局)

14 ページ記載の事後的に算定した 63.99% という数字によって 1,000kW を下回った電源は存在し、当該電源に関しては事前公表の数字でも下回っていた電源があつた。

(松村委員)

承知した。

(松平委員)

22 ページの北海道の供給信頼度 0.037 という数字をどう捉えたらいいのが十分理解できていない。まだ大丈夫という数字なのか、あるいは一定の懸念すべき数字なのかを教えていただきたい。また、今は大丈夫だとしても、今回オークション 3 回目であり、これまでの北海道エリアの供給信頼度が各年どういう傾向であつたか、少しずつ高まっている流れなのか、むしろあまり変わっていない、あるいは場合によっては下がっている流れなのかを知りたい。仮に、下がる傾向、あるいはあまり変わっていないという傾向、かつ、この供給信頼度の数字が一定の懸念をすべき水準だとすると、容量市場はひとつの重

要な供給信頼度を高めるための手段かとは考えるが、現状の制度では、場合によってはどこかが足りていない可能性もあると考えた。その場合に、例えば指標価格の1.5倍という上限価格を設定するが、その水準が適正であるか等、あるいは広域機関としてそれ以外に取り得る手段、送配電網、あるいは電源の開発についての一定のイニシアチブというものも含めて考えなければいけないのか。当然、北海道は特殊なところで自然変動電源が多く、特殊性があることは理解しているが、あまりに北海道だけ供給信頼度が低いという水準にある意味慣れてしまうのは怖く、この辺を事務局において引き続き検討いただきたいと考えた。

(事務局)

北海道エリアの供給信頼度については今回0.037で不足とはなるが、昨年度については0.017で充足となっており、今回はこのような変化があったということである。また、供給力の調達量については需要量および厳気象時等の稀頻度リスクを踏まえ必要量の供給力確保を考慮し設定されており、結果的に見て、一大事であるというわけではないと考えているが、こういった変化等を見ながら、供給力の安定供給をどうしていくべきかについて議論が必要とは考えている。

(松平委員)

承知した。

(秋池座長)

容量市場追加オークション約定結果について意見いただき感謝する。今回の約定結果や皆様からのご意見を踏まえ、引き続き次回以降のオークションに向けた検討や準備を進めていくこととする。事務局においては資源エネルギー庁とも連携しながら次回に向けた準備を進めていただきたく、願います。

## (2) 追加オークション募集要綱に関する意見募集結果について

○ 事務局より、資料4に沿って、追加オークション募集要綱に関する意見募集結果について説明が行われた。

[主な議論]

委員、オブザーバーからは特段意見はなかった。

(秋池座長)

追加オークションの募集要綱の作成はこの検討会で議論してきた内容を踏まえて準備を進めてきたが、委員やオブザーバーの皆様には様々な観点からご意見をいただき、感謝している。事務局においては、この後、追加オークションに向けて参加者向け説明会等、事業者のサポートを例年同様にお願います。

## (3) 「実需給2年度前の容量停止計画の調整業務」結果概要

○ 事務局より、資料5に沿って、「実需給2年度前の容量停止計画の調整業務」結果概要について説明が行われた。

[主な議論]

(森オブザーバー)

今回、初の取組みとなる容量停止計画調整の業務実施にあたり、広域機関の事務局においては事業者への注意喚起等ご苦労があったと想像する。無事に調整業務の完了まで導いていただき、感謝申し上げます。調整期間開始後に急

遽対応いただいたものや、ルールや考え方を明確化しなければならなかった事項もあったと認識している。初めての取組みということで試行錯誤の部分があったものと受け止めているが、事業者として対応に苦慮した部分があったことも事実。資料にも記載があるが、特に判断根拠の1つとなる作業可能量が訂正されたことで、結果として、本来は実施しなくてもよい作業調整をすることになっていた可能性もある。容量停止計画は従来との停止調整と比較しても短時間で多くの調整業務が発生することは確かであるため、13スライド記載の通り、様々な事業者へのヒアリングを通じて、次回の調整業務に向けて整理すべき事項や見直しが必要な点がないか等の洗い出しをお願いしたい。

(松平委員)

今回事業者の協力もあって調整業務が短期間に収束し、広域機関主導による再調整等の調整業務が特段必要なかったことはよかったと考える。各月で確保すべき必要な供給量を見ているということで、これまでの電源の運用等とも平仄が取られていると理解しており、これをいわずらに変更することは事業者を含めて混乱を生じさせるため得策ではないと理解している。一方で、例えば3月、9月といった月の前半、後半に確保すべき供給量の量がかなり違うという月もあると理解しており、そういった月については前半と後半を区別するというような考え方も将来的な検討の可能性としてあり得ると感じた。事業者サイドや全体的な保守、運用する会社において将来的に保守人員が不足してくるといった事象に至った場合には、このようなことも検討課題になっていくかと考えた。

(事務局)

事業者ヒアリングを通じて改善に努めていきたいと考えている。需要量が変わり、必要供給力量が変わるところを月ごとに行なっているが、ご意見いただいた、前半と後半で区別することも検討していきたいと考える。

(秋池座長)

実需給2年度前の容量停止計画の調整業務については今回初めて取組む業務であったが、多くの容量提供事業者の皆様と連携しながら毎日調整を実施してきた。実際の実務で得た知見を事業者とのヒアリングによって深めながら、本日のご意見にあった通り、まだ工夫の余地はあろうかと考えるため、より効率的で効果的な業務を目指し、事務局においては次年度に向けての検討や準備をお願いしたい。

以上で本日の議事は全て終了とする。

以上